

L-アスパラギン酸カルシウム(3214001)

【成分】

1錠中、L-アスパラギン酸カルシウム 200mg(カルシウム含量 1.3mEq)

【適応と用法】

- (1)低カルシウム血症に起因する次の症候の改善：テタニー、テタニー関連症状
- (2)次の代謝性骨疾患におけるカルシウム補給：骨粗鬆症、骨軟化症
- (3)発育期におけるカルシウム補給
- (4)妊娠・授乳時におけるカルシウム補給

1日 1.2 g, 2～3回に分服(増減)

【注意事項】

(1)禁忌

- (a)高カルシウム血症の患者 [高カルシウム血症を増悪させるおそれがある]
- (b)腎結石のある患者 [腎結石を増強させるおそれがある]
- (c)重篤な腎不全のある患者 [カルシウム排泄低下により、高カルシウム血症が現れるおそれがある]

(2)慎重投与

- (a)活性型ビタミンD製剤を投与中の患者 [高カルシウム血症が現れやすい]
- (b)ジギタリス製剤を投与中の患者 [相互作用の項参照]
- (c)高カルシウム血症が現れやすい病態の患者

(3)重要な基本的注意：長期投与により血中及び尿中カルシウムが高値になることがあるので、長期投与する場合には定期的に血中又は尿中カルシウムを検査することが望ましい。また、高カルシウム血症が現れた場合には中止する

(8)室温保存

【副作用】

(4)相互作用

併用注意

薬剤名等 臨床症状・措置方法 機序・危険因子

ジギタリス製剤(ジゴキシン,ジギトキシン) ジギタリス中毒(不整脈,ショック)が現れることがある。定期的にジギタリス中毒の有無,心電図検査を行い,必要に応じてジギタリス製剤の血中濃度を測定し,異常が認められた場合には,ジギタリス製剤の減量若しくは中止する ジギタリス製剤の作用を増強する

テトラサイクリン系抗生物質(テトラサイクリン) テトラサイクリン系抗生物質の作用が減弱するおそれがある。同時服用を避け,併用する場合には1～3時間以上あける等注意する カルシウムイオンはキレート化によりテトラサイクリン系抗生物質の吸収を阻害する

ニューキノロン系抗菌剤(塩酸シプロフロキサシン,ノルフロキサシン,トシル酸トスフロキサシン) ニューキノロン系抗菌剤の作用が減弱するおそれがある。同時服用を避け,併用する場合には,2時間以上あける等注意する カルシウムイオンはキレート化によりニューキノロン系抗菌剤の吸収を阻害し,血中濃度を低下させる

(5)副作用：使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため,発現頻度については文献,自発報告等を参考に集計した。総症例 344 例中,副作用が報告されたのは 14 例(4.1%)で,主な副作用は膨満感 8 例(2.3%),軟便 2 例(0.6%)等であった(再評価結果)。副作用が認められた場合には,中止するなど適切な処置を行う

頻度不明 0.1～5%未満

長期投与 高カルシウム血症,結石症

消化器 腹部膨満感,胸やけ,軟便等

その他 頭痛,心窩部不快感,発疹

(6)高齢者への投与：一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意する

(7)小児等への投与：未熟児,新生児,乳児には投与しないことが望ましい [3 週齢以下の幼若マウス及びラットにアスパラギン酸として 250 mg/kg 以上を投与すると,視床下部弓状核に病理組織学的変化を認めたという報告がある]

【長期】

【備考】